

## 4 - 6 中国東部・近畿北部・北陸地域における地震活動

(1978年1月～1978年6月)

Seismicity in the Eastern Chugoku, Northern Kinki and Hokuriku Districts,  
Southwest Japan (January, 1978 - June, 1978)

京都大学防災研究所 鳥取微小地震観測所

北陸微小地震観測所

京都大学理学部

阿武山地震観測所

Tottori Microearthquake Observatory and Hokuriku Microearthquake Observatory,  
Disaster Prevention Research Institute; Abuyama Seismological Observatory, Faculty of  
Science; Kyoto University.

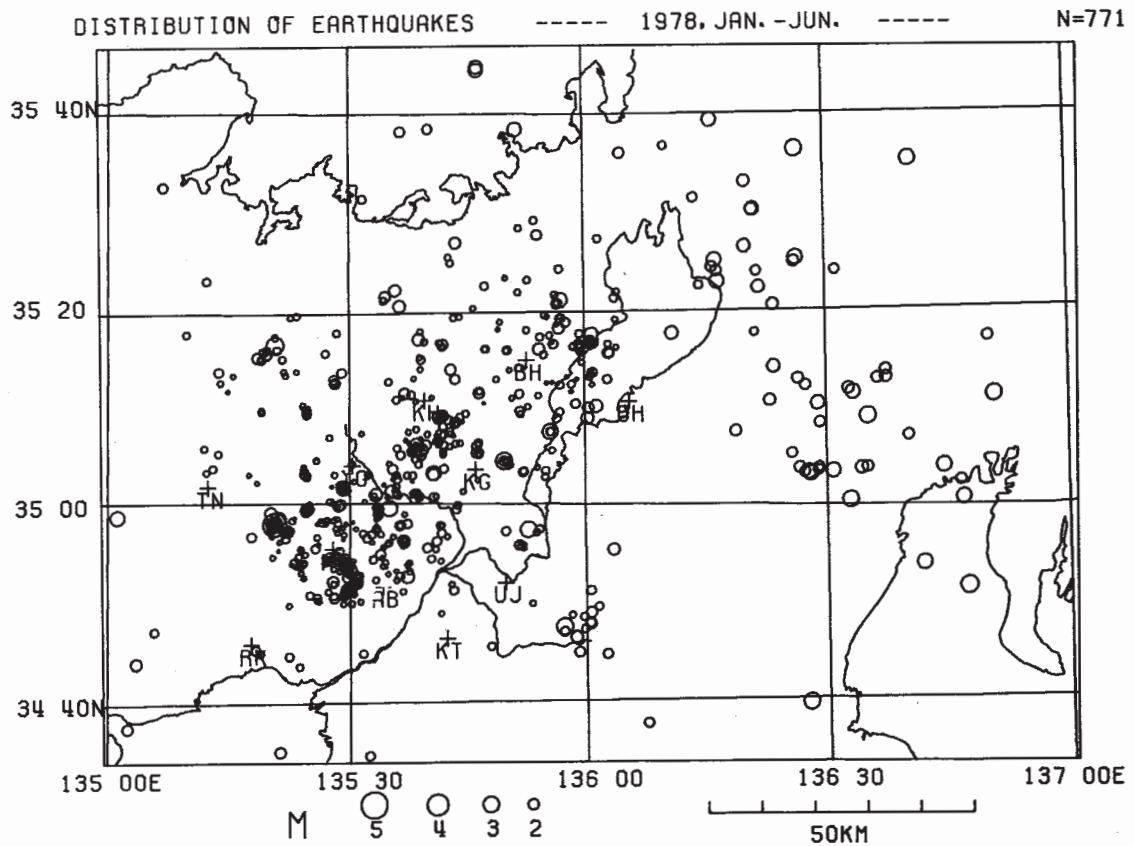
標記の地域については、各半年毎の結果を報告している。その趣旨や表示方法については、  
本会報第18巻<sup>1)</sup>を参照されたい。

今回報告する1978年前半の特徴は以下の通りである。

1. 鳥取微小地震観測所の観測結果によれば、1977年後半<sup>2)</sup>における山崎断層に沿う地震活動はこの期間にも尚続いており、特に断層の北西部分の活動が目立つ。これは、1977年9月30日断層中央部に起った地震活動<sup>3)</sup>が北西方向に伝播したように見える。また、山崎断層全体にわたって、比較的大きな微小地震(M:2~3)が起っている。
2. 1977年後半には、山崎断層と共役な方向の地震活動が盛であったが、今回は、その方向の活動は低くなっている。
3. 山陰海岸の倉吉・鹿野地域に地震が多発しているのが目立つ。
4. 阿武山地震観測所の観測結果では、琵琶湖西岸から丹波山地、淀川北岸地域の地震活動は相変わらず活発である。今回は特に、阿武山(AB)と丹南(TN)を結ぶ線上の活動と、宇治(UJ)東南方の木津川上流の地震が目立つ。琵琶湖東南岸地域には依然として地震活動がない。
5. 北陸微小地震観測所の観測結果：福井地震断層に沿う活動が顕著であった。特に、中央部に見られる活動は、福井市東方約10kmの永平寺町附近のM $\approx$ 4.8の地震を主震とする活動で、福井市で震度4であり、特筆すべきものであった。
6. 福井地震断層の日本海中への延長部分に、1977年後半、地震活動が目立ったが、1月27日、その延長上にM4.6の地震が発生した(気象庁によれば、135°04'E, 37°28'Nで第2図には含まれない)。

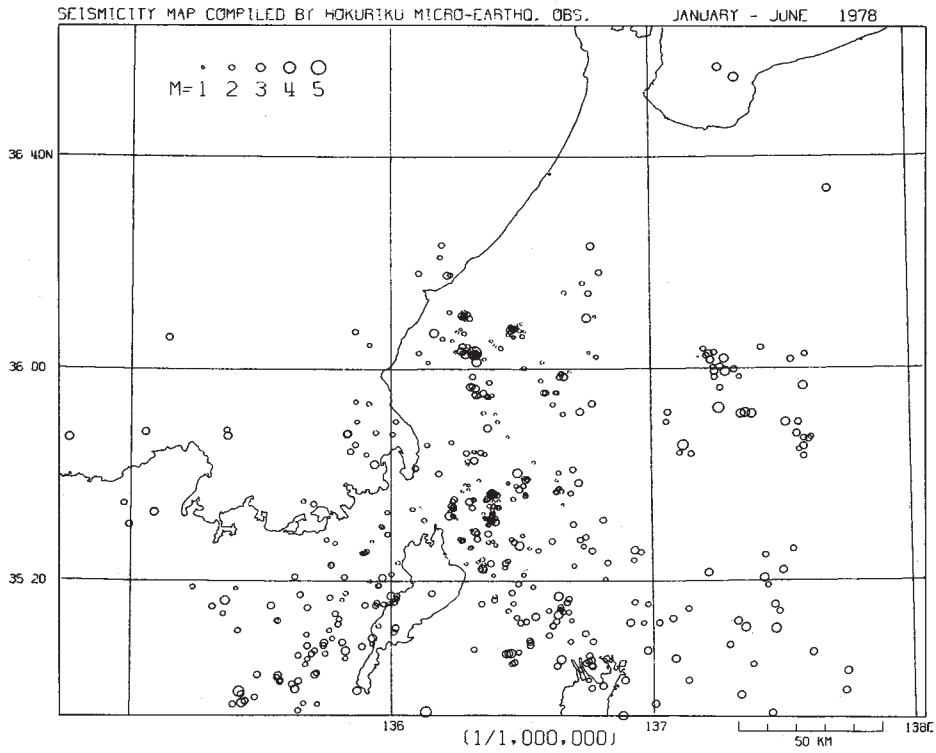
参 考 文 献

- 1) 京都大学防災研究所鳥取微小地震観測所・北陸微小地震観測所, 理学部阿武山地震観測所:  
中国東部・近畿北部・北陸地域における地震活動(1976年7月~1976年12月), 連絡  
会報, 18(1977), 104-106.
- 2) 同上: 同上(1977年7月~1977年12月), 連絡会報, 20(1978), 155-157.
- 3) 山崎断層研究グループ: 1977年9月30日の山崎断層の地震(M=4)に伴った諸種の  
異常変化について, 連絡会報, 19(1978), 122-128.



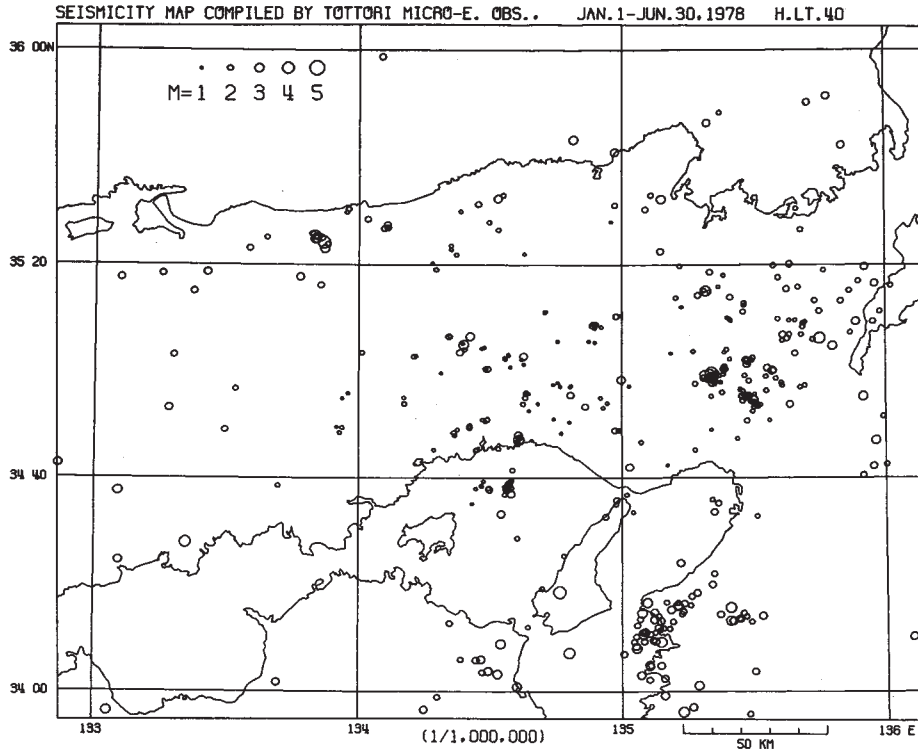
第1図 阿武山地震観測所による震央分布図

Fig. 1 Seismicity map by the Abuyama Seismological Observatory.



第2図 北陸微小地震観測所による震央分布図

Fig. 2 Seismicity map by the Hokuriku Microearthquake Observatory.



第3図 鳥取微小地震観測所による震央分布図

Fig. 3 Seismicity map by the Tottori Microearthquake Observatory.